

みんなの童話

ブワーブワーせんたくき

朝です。せんたくきのふたが開いています。

お父さんがパジャマをほい。ケンちゃんがパジャマとハンカチをほい。

シンちゃんがパジャマとくつ下をほい。

お母さんがパジャマとタオルをほい。

せんたくきの中はいっぱいです。スイッチを入れると、せんたくきは大きく右へ左へとゆれまわります。重くてしかたがないのか、動きがにぶくてゆっくりです。おまけに回転するたびに、ギイギイガタガタ耳ざわりな音をたてます。もう一つおまけにブワーブワーとうなります。いつもこんなふうにせんたくが始まるのです。

土曜日でもせんたくです。

お父さんがパジャマとワイシャツをほい。

ケンちゃんがパジャマと給食工ブロンをほい。

シンちゃんがパジャマと体操着をほい。

お母さんがパジャマとエプロンをほい。

「今日は、ぼくらがお手つだいするよ」

ケンちゃんが洗剤を入れます。

シンちゃんがスイッチのボタンを押します。おやおや、せんたくきは、いつもよりもっと重そうに動き出しました。ギイギイガタガタ、ギイギイガタガタ、ブワーブワー。

「わあ、どうしたんだ」

「たいへんだ」

慌ててケンちゃんがスイッチを切ろうとしました。でも激しく動くので、スイッチを切ることができません。

「お母さん、たいへん、たいへん」

二人は、リビングへお母さんを呼びに行きました。

「そう、せんたくおばさんがおならをしているのよ。いつものことだからいいの」

お母さんは驚くでもなく、のんびりテレビを見ています。

せんたくきは、相変わらずギイギイガタガタ、ギイギイガタガタ、ブワーブワー。

「せんたくおばさんか・・・」

「たしかに」

ブワー。

「ブワーだって」

ブワー。

「はは、ほんとだ。おならしてる」

二人は顔を見あわせて大笑い。

「あははは」

せんたくおばさんの音にあわせて、歌いながらおしりふり。

「がんばれギイギイ、がんばれガタガタ。おならブワーブワー」

なんだかとても愉快です。

日曜日、今日も休まずせんたくです。お母さんがスイッチのボタンを押しました。あれ、どうしたブワーうなるばかりです。

「お父さん、ちょっと」

お母さんが、甲高い声でお父さんを呼びました。

「たいへん、動かないわ」

お父さんは、二・三度ボタンを押しました。

つかれた ブウツ。

やすむよ ブウツ。

せんたくおばさんは、それっきりギイギイともガタガタともブワーブワーともいわなくなりました。

「困ったわね」

「どこが悪いのかな」

「直るかな」

みんなは、心配そうにせんたくきをながめました。



「ずいぶん働いたから、もう引退かな」

お父さんは、せんたくきのふたをそつと閉めました。

「いやだ。せんたくおばさんのおなら聞きたいな」

「聞きたい、聞きたい」

ケンちゃんとシンちゃんは、おしりをふって見せました。

「なんだから、静かな日曜日になっでしまいました」

「もしもし、電気屋さんですか。すみません。うちのせんたくき、直してもらえませんか」

お父さんが電話をしました。

きつと明日には、直るでしょう。そして、少しは上品で静かなせんたくおばさんになれるかわるでしょう。

しろうま会員 きくかわけいこ